

ふるさと通信員だより

vol.204

このコーナーでは、ふるさと通信員が取材した身近な地域の話題を紹介します。なお、町では通信員を募集しています(活動はボランティアでお願いしています)。広報活動に興味のある人は、役場広報広聴課広報係(内線216)にご連絡ください。



たかだ てつこ 通信員
高田徹子

活発に社会活動の 老人会

豊田老人クラブ(中村和夫会長、会員79人)は、豊田会館周りの整備と花壇づくりをしました。毎年恒例で、男性たちは会館周りの草刈りや、高さが5〜7メートルほどある松やモミジ、エンジュの木を剪定し、汗を流していました。女性たちは3月に種をまき手塩にかけて育てたサルビアやエゾキク、マツバボタンなどの花の苗を持ち寄り、合計で725本を植えました。黄色やオレンジ色のマリーゴールドの苗60本を育てた宮部洋子さん(77)は「きれいに咲いてよ」と思いを込めてました」と話していました。四季折々に咲き続ける彩り鮮やかな花壇が今年も見事に完成しました。



いだ ひさよ 通信員
石田尚世

日々を大切に

徳地崇さん(北鈴蘭)は妻の恵子さんと長男の剣信君(9)、長女の菜子さん(4)の4人家族です。徳地さんは自宅にパソコン部屋を作り、仕事やゲームに活用しています。また、子どもたちが体を動かせるように庭先にバスケットゴールを設置したり、買い替えたテレビで映画鑑賞をするなどステイホームを有意義な時間に行っています。その一方で、ボランティア登録をしている教育委員会主催の放課後子ども教室の再開を待ち望んでいます。徳地さんは、家族の時間を大切にしながら、地域社会への関わりづくりにも積極的に取り組んでいます。